

山の日情報

(第 5 号)

平成28年7月29日

秋田県生活環境部
自然保護課

【活動記録】

7月17日(日)と18日(月)に1泊2日の行程で「八瀬森避難小屋」の防腐塗装及び登山道等の刈払いを実施しました。参加者は、大館鳳鳴山岳部、能代工業山岳部、鹿角市山岳会、関係者(環境省、仙北市役所など)の総勢17名のボランティアが集まりました。

1日目は朝から雨模様でしたが、‘山ヤ’である高校生は意欲十分であり10時に出発。鹿角市山岳会の阿部会長、山口自然公園管理員がガイドし、まずは大深山荘までの沢登りをします。

大深山荘で昼食をとってからは、なだらかな稜線歩きとなりますが、八瀬森への分岐点からは笹ヤブとなります。塗装材料を背負いながらの刈払作業は困難を極め、悪路に足をとられながらボランティア隊は悪戦苦闘。



(大深山荘を目指し沢を詰める)



(分岐からはワイルドな道が続く)

そのような中、突然視界が開けたかと思うと、そこはニッコウキスゲの黄色に染まる湿原が現れます。一言で表せば天国!「おお」との感嘆の声が上がりました。

その後もヤブこぎは続き、関東森を過ぎるとようやく目的地(宿泊地)の八瀬森避難小屋(1,168m)へ17時に到着。なんと出発から7時間もかかりました…

なお、防腐塗装については悪条件のため中止。荷揚げしていただいたペンキ等は小屋に保管してきましたので、後日、自然保護課において塗装作業を行うことにしました。

2日目は曇り空のもと7時に出発。ニッコウキスゲの絶景は往路の際に見ていますが、何度見ても興奮します。

帰路は高校生の安全を考えて、大深山荘での昼食をもって解散。高校山岳部は畚岳登山口、社会人山岳会等は沢登り登山口にそれぞれ下山しましたが、さすがは山ヤの皆さんです。一人も遅れることなく山行を無事に終えることができました。



(ニッコウキスゲの群落が点在)



八幡平から秋田駒ヶ岳をつなぐ当該ルートは東北を代表する縦走路であると思いません。この登山道が廃道とならないように行政側は適切な維持管理に努めていきますので、高校山岳部及び社会人山岳会の皆様には、今後も力添えをいただきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。



最後に小松由佳さんのメッセージカードから次の一節を紹介します。

山の道をたどって ひっそりと咲く花を 命のみなぎる木々を愛でよう

木こりや行商 狩人に山伏など 古くから様々な人が行き交い
受け継がれてきたこの山の道

過去と未来をつないでいるこの山の道

時が流れても また次の世代がこの山を楽しめるように
私たちがこの道を歩き 未来へと残していきたい
そうやってこの道が守られてきたように

(抜粋)

(参加者の感想)

・八瀬森までの道は整備されておらず非常に歩きづらかったですが、山岳会の方々が案内をしてくれたので、刈払作業ができました。またこのような機会があれば協力したいです。(能代工業 大原晴希)

・八瀬森避難小屋まで防腐剤を運びました。天候が悪くて塗装作業はできなかったけど、良い経験になりました。(能代工業 高橋尚之)

・地図にもない湿原が存在していて、モウセンゴケ等の多種多様な高山植物が存在していました。高山植物は大切にすべき命のひとつだと思います。(能代工業 中村匠)

・このボランティアの山行で、初めて沢登りを体験しました。とても辛かったですが、登り切って荷揚げすることができました。(能代工業 西巻勇人)

・今年から 8 月 11 日は「山の日」になりました。これを機に山に登ってくれる人が増えてくれることを願って、防腐剤の荷揚げのボランティアをがんばりました。

(能代工業 大高柊馬)

・このボランティアを通して、誰かの役に立つことの大変さを実感しました。そして、このボランティアはこれからの高校生活を送るうえで、ひとつの自信につながるものだと考えます。(大館鳳鳴 佐藤海翔)



(関係者の感想)

八幡平は今年国立公園指定 60 年の節目の年を迎えました。古いこの山の様子に興味を持って資料を読み、八幡平の歴史の一端、この山に関わってきた人たちのことを少しだけ知ることができました。

乳頭温泉郷までも続く裏岩手縦走路の伐開作業は鉋と鎌とによる山中の幕営 100 日にも及ぶ作業であったとか。食料さえも十分ではなかった時代にどんな人たちがその作業にあたったのだろう。今の私たちにそんな作業が出来るだろうか。そして、今と同じ景色の道をどんな人たちが通ったのだろうなどと思いを巡らせてしまいます。

ただ、登山道も山小屋も人の作ったものは全て手入れをしなければ元の山に戻ってしまいます。

「山中幕営 100 日」とは要は情熱ではないか。

それぞれの立場の人たちが、「山の道を守る」という情熱で結びついてこの道が守られていく。そのような事を考えた山行でした。(鹿角市山岳会会長 阿部明広)